

今号の記事

<2・3面>消費税増税を阻止しよう! / 精神科後期研修医紹介 / 身近に考えたいメンタルヘルス / クッキング=ラスク / 市民公開講座案内「イラクで子どもたちに起きたこと」 / 看護職員大募集!! / 建設協力債到達 / 診療案内  
<4面>「生きる力と向きあって」

# へいわと健康

だれでも、いつでもかかれる、安心・安全の医療をめざして

〒631-0818 奈良市西大寺赤田町1-7-1  
医療法人平和会吉田病院 法人事務局  
発行責任者 常務理事 田中義夫  
☎(0742)45-4601(内線216) FAX(0742)45-5085  
http://www.heiwakai.or.jp/



## 平和会は 認知症医療に どう取り組むのか

認知症病棟について皆さんによく知って  
いただき、適切なタイミングでの入院治療  
で、今の生活を維持できることをお伝えし  
たいと思います。

**お気軽に  
ご相談ください!**  
患者様のご家族へは、疲労が限界となる前に相談をいただけるよう、また地域へは認知症の正しい理解を広げます。早期発見・早期治療と早期入院・早期退院が本人・家族にとって大切なことです。

厚労省の医療政策として癌・脳卒中・急性心筋梗塞・糖尿病の「4疾病」に「精神疾患」が加えられ「5疾病5事業」となりました。精神科医療への期待は高まり、今後は期待が大きい認知症の窓口充実が求められます。

現在の認知症患者さんの病棟では、認知症の周辺症状(BPSD)がでてから数年が経ち、自宅閉居や生活破綻などで入院される方がおられます。入院後は服薬調整や家族からのサポート調整を進めながら状態の安定を図り、自宅・グループホーム・老健施設などへ退院されています。やはり実際に早期に治療開始された方は、早い段階での退院が可能ですし、逆に家族の疲弊が続くと自宅が退院先となり、入院

が長期化の傾向があります。長期化すると更に自宅へ戻る事がむずかしくなる…。今後の課題の一つではないでしょうか。今までの病棟施設では受け入れの限界がありました。しかし、新病棟では、看護力の強化や、QOL(生活の質)の向上を意識した病棟活動を行いながら、ご家族への治療方針・病状説明などをきちんとしていく、安心して入院生活を過ごしていただけるよう努めていきたいと考えています。

新病棟は認知症の強化の他に、精神科救急病棟の増床も行われます。急性期精神病状態の方を対象とした病棟で看護体制も手厚く、より精神科治療の場として重要な役割を担う事となります。吉田病院が積み上げてきた「あたたかく」「寄り添える」精神科医療を、地域の切実な期待にこたえられるように発展させていくこと、全職員の議論を進めていきます。吉田病院事務次長 北川元彦

### 入院は、余裕をなくしてしまう前に

ご家族自身の疲弊限界にならないタイミングでまだ余裕がある内に、「もう少し」「でもしんどいな」

↓ 入院後

自分と患者との関係を冷静に見つめ直す「もう少し家でやれる！」

- 早期発見・早期治療・早期入院が必要
- 患者さま自身の人権倫理的な配慮が必要

### 外来の取り組みや対応

\* 認知症の病態の説明

1. 認知症という病気を理解してもらう
2. 様々な病型がありそれぞれ経過や症状が異なることを知ってもらう
3. 患者さまの事をもう一度みなおし理解してもらう

### 入院から退院までを安心して治療するために

- ・ 入院時に家族・患者様へ治療方針を説明
- ・ 一ヵ月後に再度、治療方針の説明
- ・ 病状が落ち着けば自宅や施設に退院できるかの確認を行う
- ・ 施設を希望される方は申し込み等を行う
- ・ 三ヶ月を退院設定

入院して問題を整理すると施設への筋道が早く立つこともある

### こころも身体もみれる認知症医療をめざします♥



家族の献身的な介護やデイサービスで穏やかに過ごしていたが、やがて幻聴が活発に。暴言、介護や内服の拒否、不眠で体重も減少。精神科に入院後は内服や生活でスタッフが工夫して関わり、次第に落ちつき、

幻聴と興奮が活発なAさん

の結果、悪性腫瘍がみつかった。現在は嘔吐なく経口摂取可能で安定した状態。穏やかに妻と面会されている。

嘔吐と下痢が頻回となったが、かかりつけの病院では認知症状のため精密検査困難と判断され、身体精査と服薬の調整目的に吉田病院精神科へ入院。精密検査の結果、悪性腫瘍がみつかった。現在は嘔吐なく経口摂取可能で安定した状態。穏やかに妻と面会されている。

やがて退院。現在は3ヵ月に1度外来通院中。

打ち上げたロケットは約2分後に通信が途絶えて爆発、墜落して実験は失敗した。2010年に羅老島から打ち上げられた2度目のロケットも失敗したのだ。これは韓国ロケットの話である。▼ミサイルもロケットも同じ物であるが、北朝鮮の場合はミサイルとなり、日本の対応に雲泥の差がある。因に日本のロケットは2トンを衛星軌道に乗せる力を持って遥かに進んでいる。▼対応の違いは核開発の有無だといわれてる。Nuclear weaponは核兵器、Nuclearとは核という意味で、核開発はNuclear Development、しかし日本では原子力開発と訳され平和的な発電事業と宣伝されて来た。日本は既に核兵器の材料、プルトニウムを北朝鮮より遥か大量に保有している。▼北朝鮮のミサイルに日本は迎撃ミサイルを予告進路の沖縄方面以外に東京にもものものしく配備した。しかし沖縄の米軍は無意味である事が明白なミサイル迎撃体制を全く取らなかった。日本の騒動は北朝鮮を利用して毎年1,000億円以上の予算を計上し続けているミサイル防衛体制の演習を宣伝だった。